

市民交流プラザの利活用の 促進について

令和3年9月2日

十和田市 民生部 まちづくり支援課

目次

1. 施設の概要
2. 施設の利用状況
3. 成果
4. 今後の方向性

1. 施設の概要

●平成26年10月、市民活動の新たな地域活動拠点
や中心市街地活性化を目的として開館

●隈研吾氏による「みちと広場を融合させたにぎわいの
広場」をコンセプトとした設計

●総工費は
約940,000千円

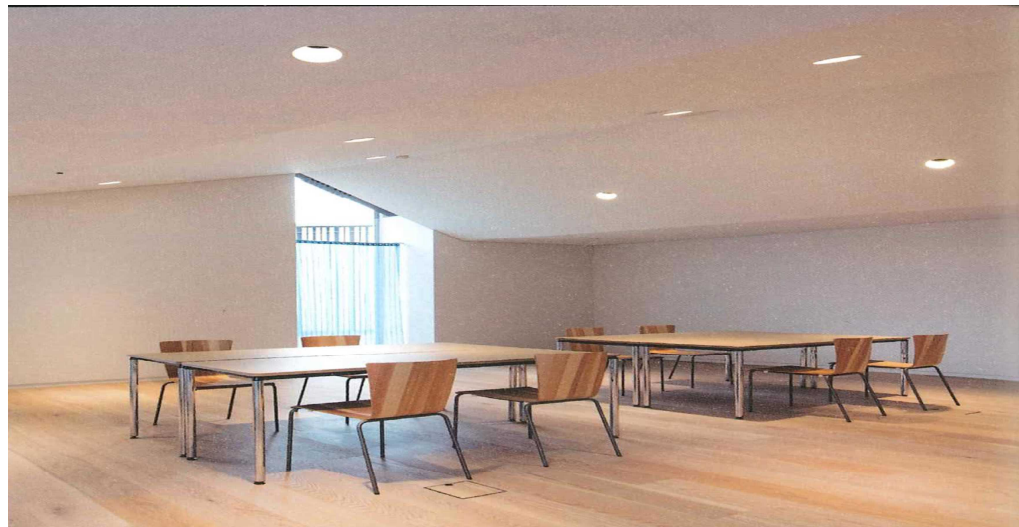
●H26～R2年度までの
6年半で、管理経費
約231,697千円執行



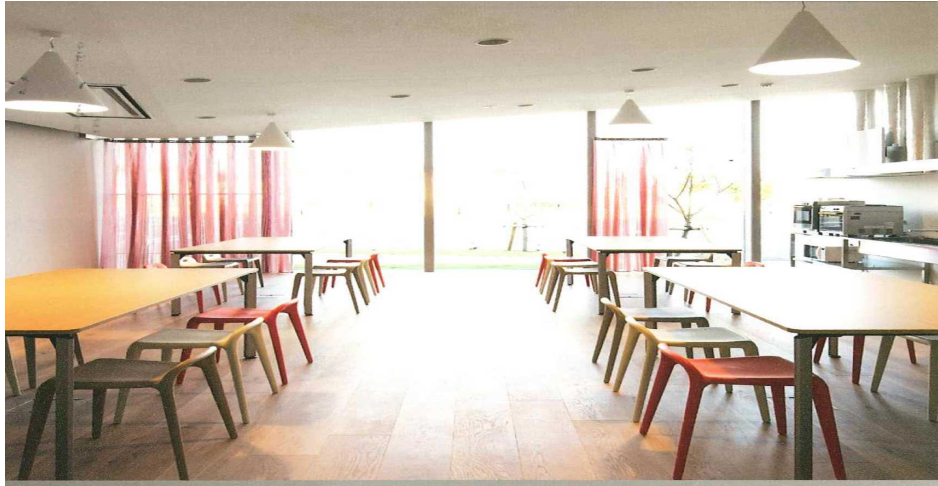
◆多目的研修室1・2・3

●研修会やレクチャー、
会議など様々な用途
に活用可能

●ギャラリーや軽い
運動にも利用可能



◆キッチンスタジオ



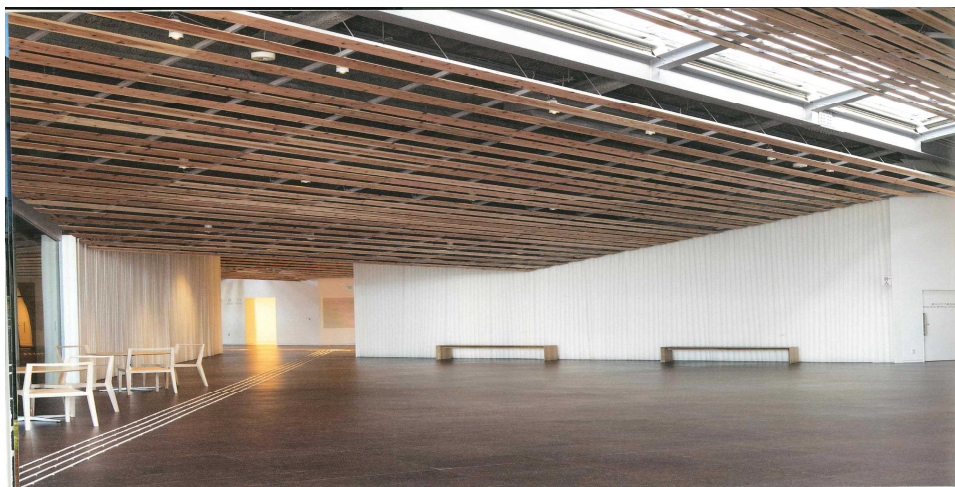
- 調理設備を壁面に集約したスペース
- 料理教室や会議にも利用可能

◆和室1・2・3

- 3部屋が障子で仕切られた和室で、稽古や会議の場として利用可能



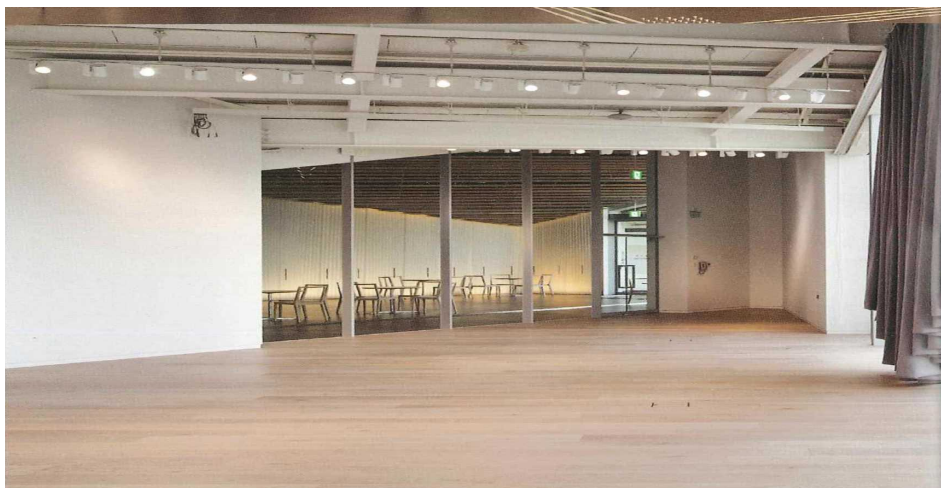
◆エントランスホール



●市民がいつでも利用できるスペース

●イベントや展示などにも利用可能

◆展示室



●幅広い展示利用が可能

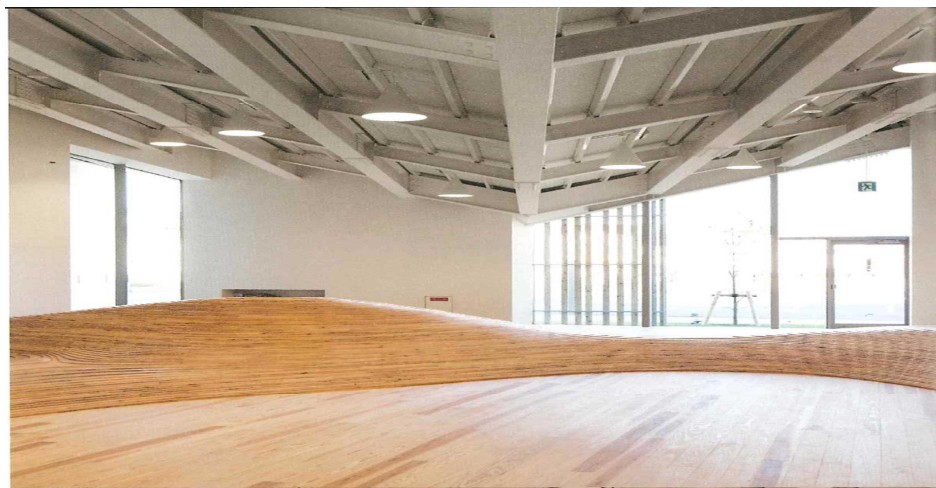
◆親子ふれあいスペース



- 乳幼児を対象とした遊び場
- 親子の交流の場として利用可能

◆プレイルーム

- 小学校低学年程度の児童を対象とした遊び場



◆スモールオフィス



●デスクワークができるスペースで、主にNPO・市民活動団体等が利用可能

(1) 施設管理に係る業務内容

◇職員による業務

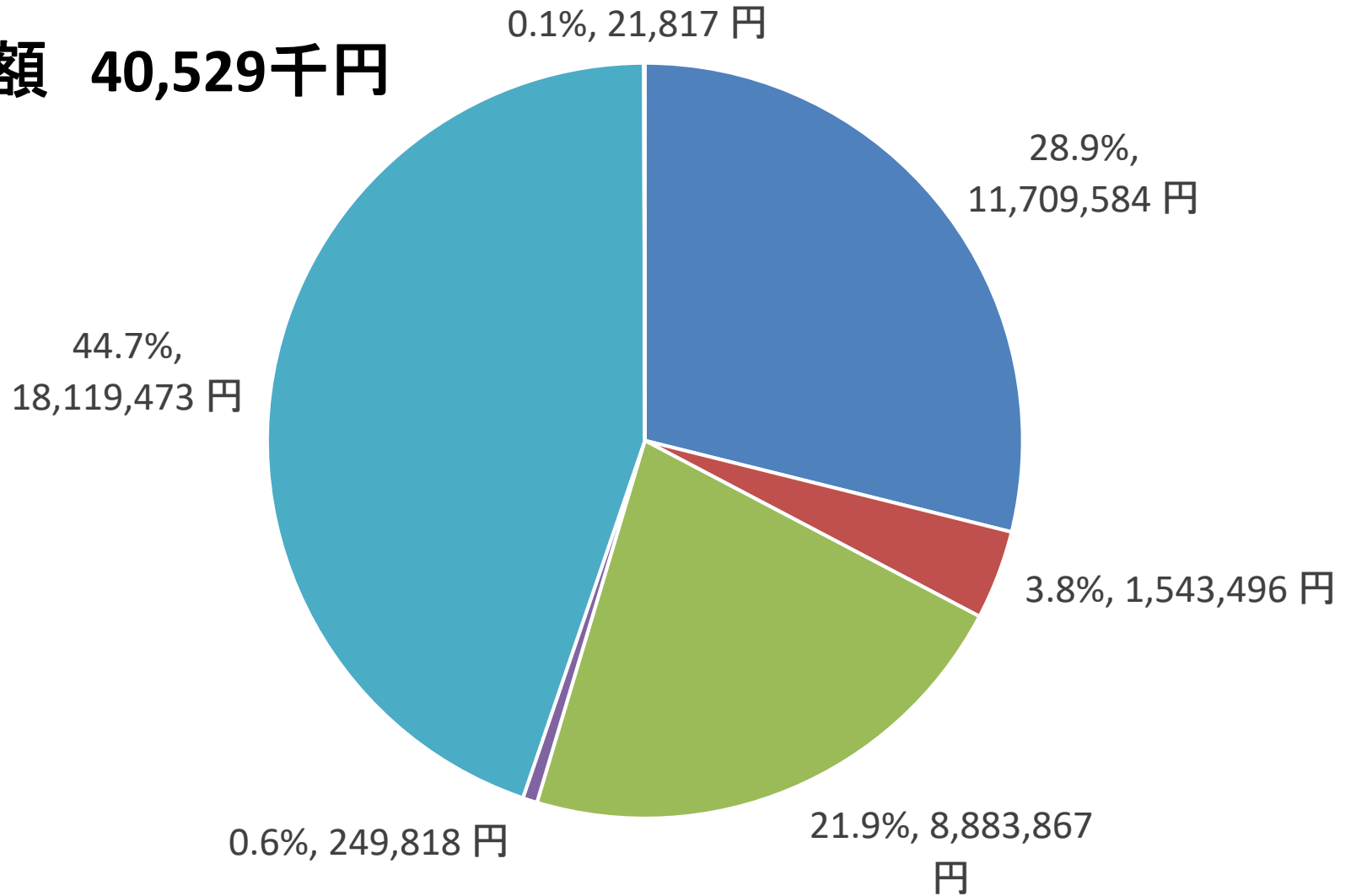
- ・施設の利用案内、予約や申請の受付、使用料の請求等の貸館業務
- ・日常的な点検や簡易な補修作業等
- ・各種契約事務
- ・消毒作業

◇委託業務

- ・施設内の清掃業務や夜間管理業務
- ・各種設備の専門的な点検業務

(2) 令和2年度管理経費の内訳

総額 40,529千円



■ 報酬 ■ 職員手当等 ■ 需用費 ■ 役務費 ■ 委託料 ■ 使用料

2. 施設の利用状況

① 来館者数の推移

② 来館者100万人達成までの推移

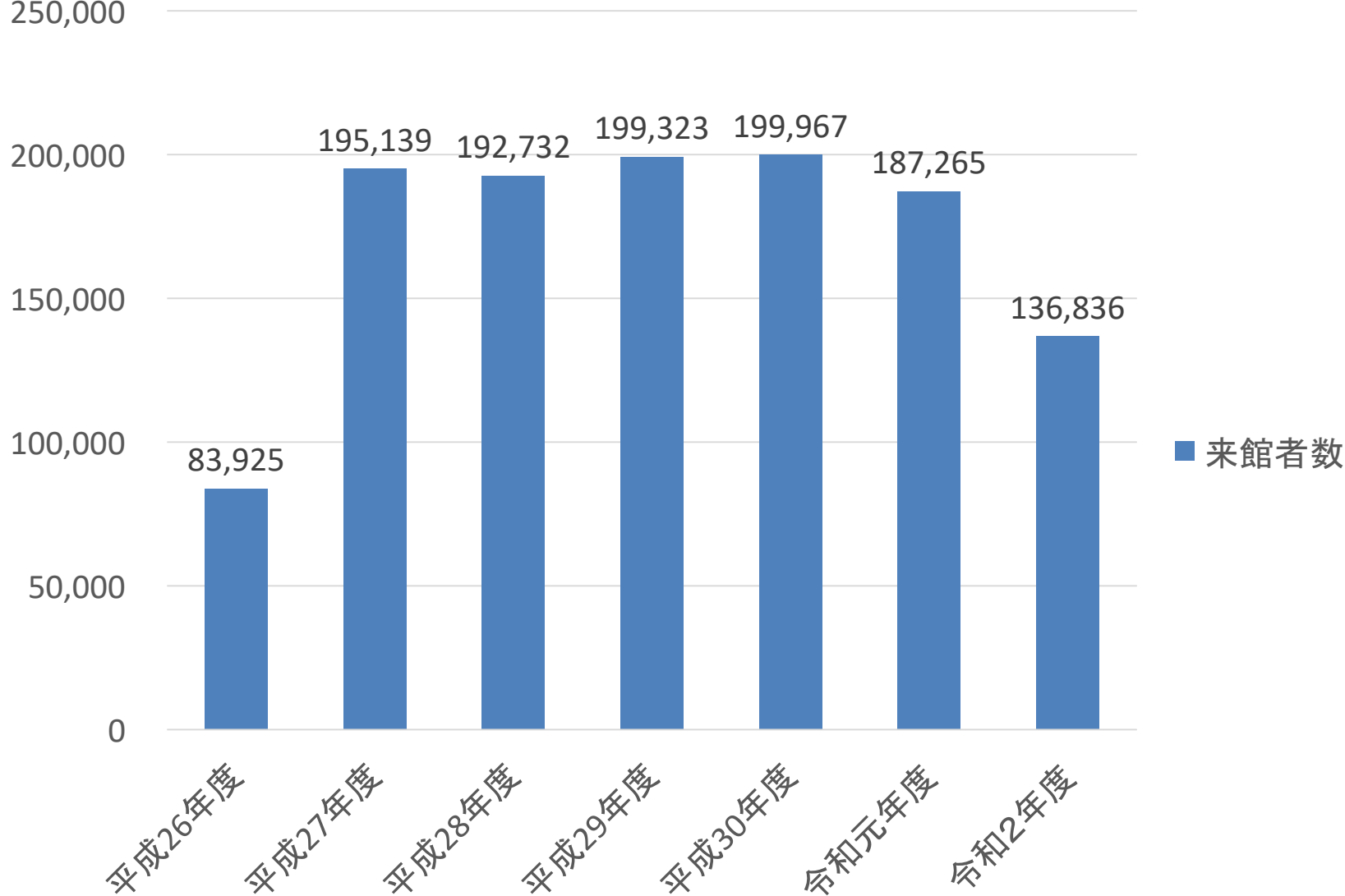
③ 部屋毎の利用率の推移

④ 使用料収入の推移

⑤ 駐車場使用料収入の推移

① 来館者数の推移

(単位:人) 250,000



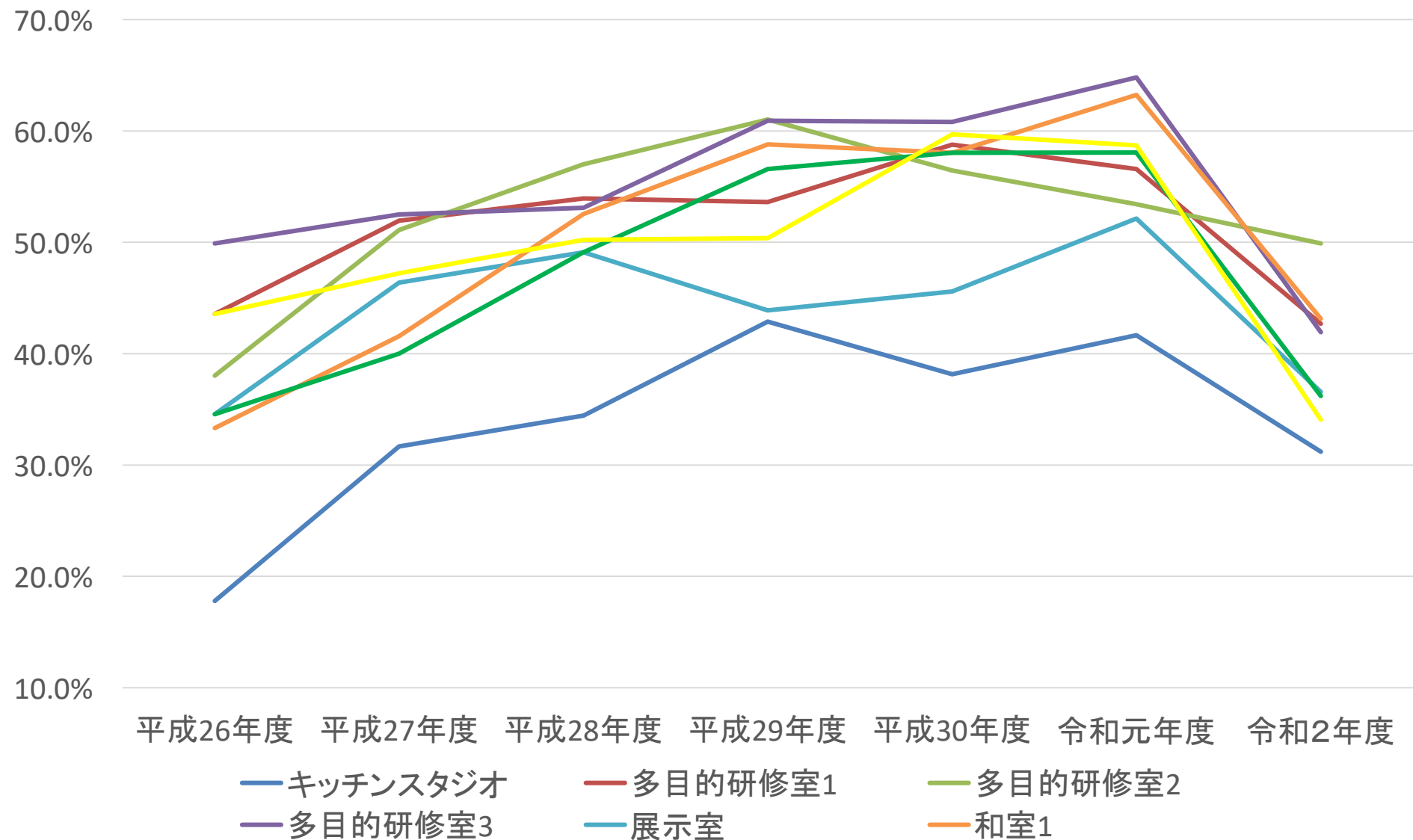
② 来館者100万人達成までの推移

| | |
|----------------|--------------|
| 平成26年10月 | オープン |
| 平成27年5月 | 10万人 |
| 平成27年10月 | 20万人 |
| 平成28年5月 | 30万人 |
| 平成28年11月 | 40万人 |
| 平成29年5月 | 50万人 |
| 平成29年11月 | 60万人 |
| 平成30年5月 | 70万人 |
| 平成30年11月 | 80万人 |
| 令和元年5月 | 90万人 |
| 令和元年11月 | 100万人 |
| 令和2年8月 | 110万人 |
| 令和3年4月 | 120万人 |

祝 市民交流プラザ「トワーレ」
来館者100万人達成

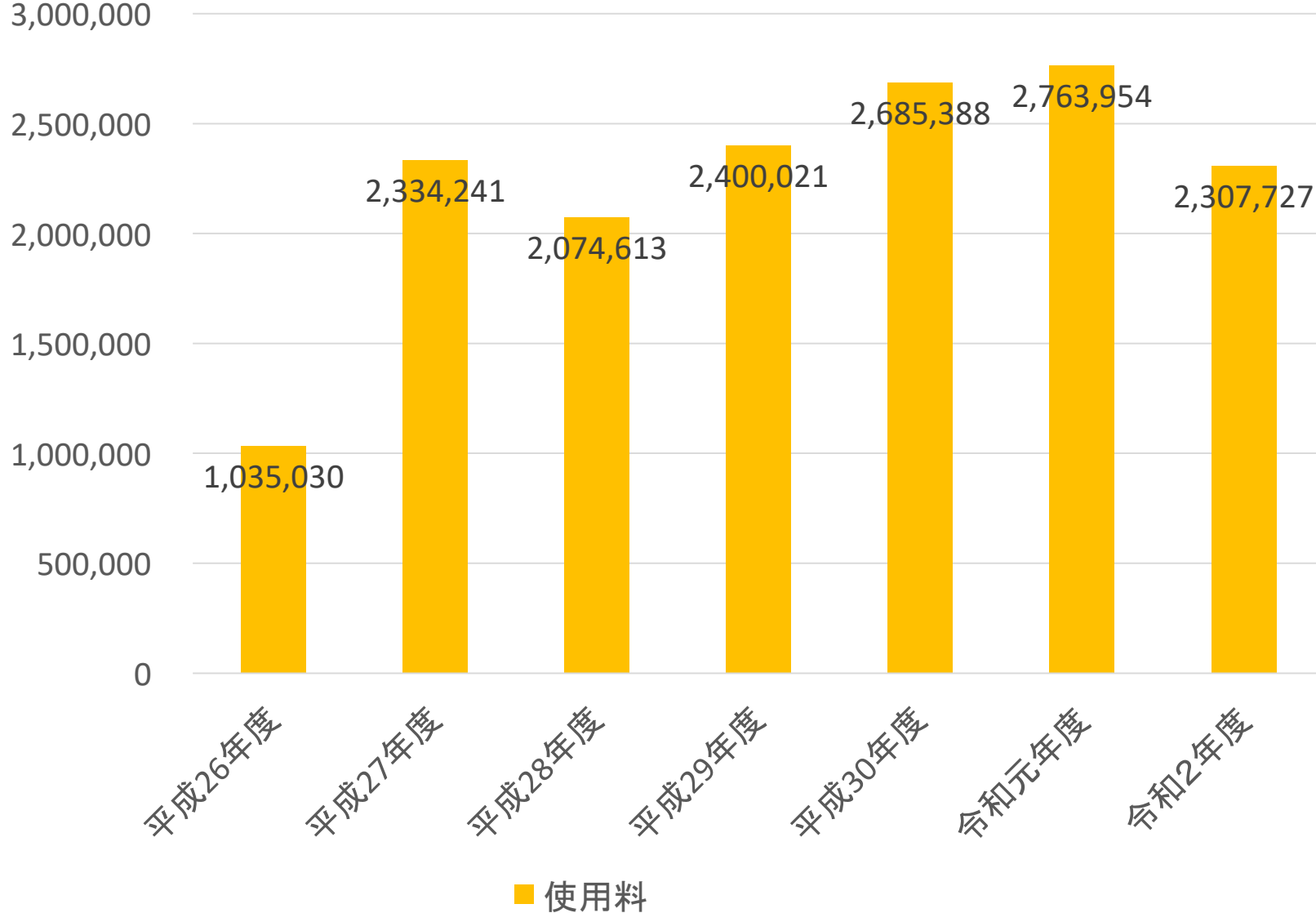


③ 部屋毎の利用率の推移



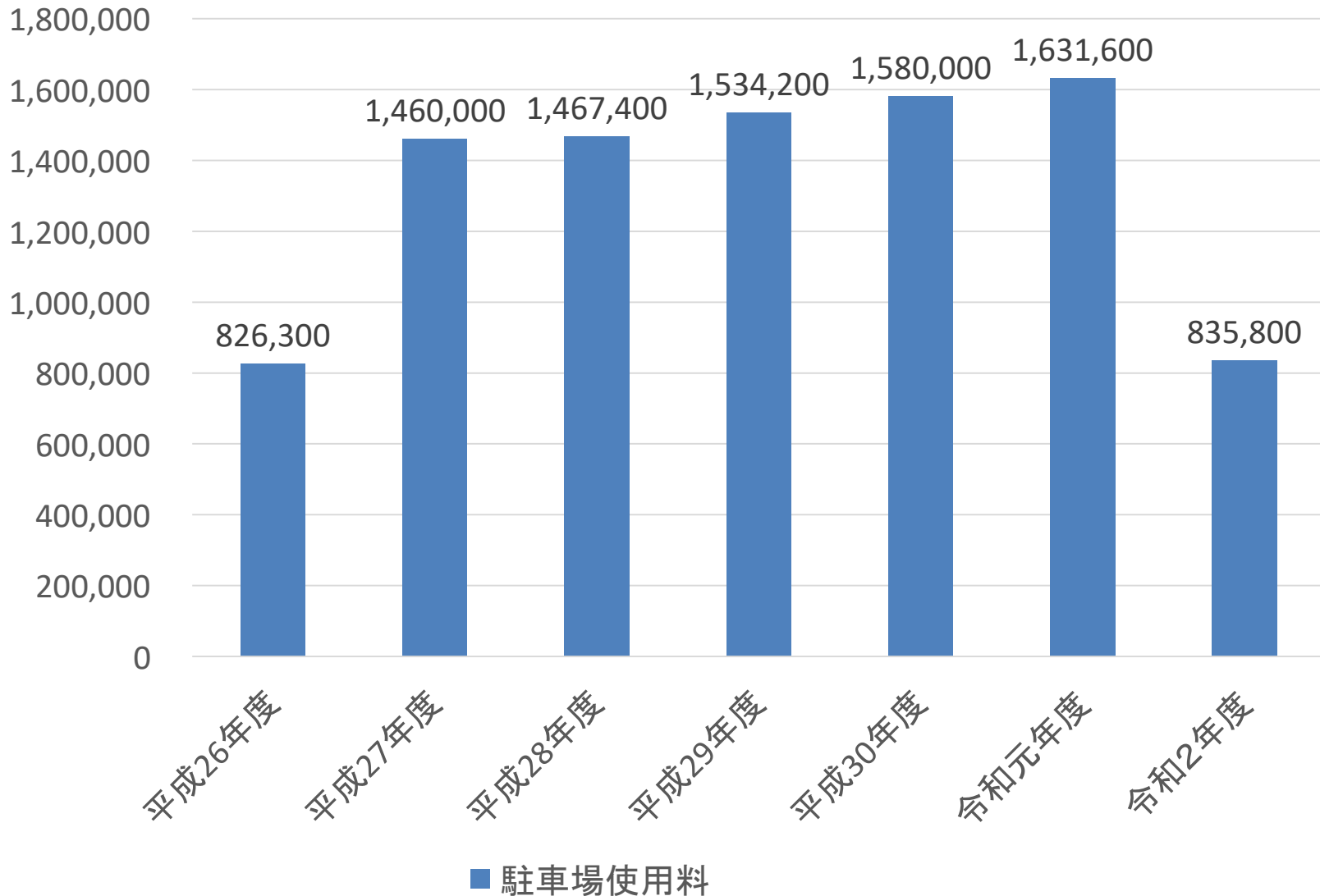
④ 使用料収入の推移

(単位:円) 3,000,000



⑤ 駐車場使用料収入の推移

(単位:円)



3. 成果

● 市民活動の拠点としての定着

- ・ 利用率の向上
- ・ 開館当初から継続利用している市内外の団体や一定数のリピーターの存在

● 中心市街地の活性化への寄与

- ・ 「アートのみち」を象徴する、市現代美術館、教育プラザに並び、観光客の増加に貢献
- ・ 観光・芸術関連雑誌等に掲載、紹介されることにより、認知度が向上し、県内外からの誘客にも貢献

→ 建設のコンセプトに沿った利活用が実現！！

4. 今後の方向性

今後も継続して事業内容を見直し、にぎわいの創出及び市民活動のより一層の充実を図る。

● コロナ禍でも安心して利用できる環境の構築

- ・ 施設の消毒や換気等の基本的な感染症対策を徹底して行う。
- ・ ソーシャルディスタンスを確保するため施設利用者へ注意喚起を行うほか、利用人数の制限をする。

● 施設予約の調整と利用者への適切な対応の徹底

- ・ 可能な限り利用者の希望に沿った内容での貸館業務を行う。
- ・ お客様に満足していただけるような接遇を心がける。